Q&A

一宮小校区連携協議会（登壇者：近森 佐代 会長 他6名）

『連携協議会設立に至るまでと現在の活動』

参加者からの質問と一宮小校区連携協議会からの回答

Q1　副会長4人、事務局4人と大変手厚い布陣が羨ましいです。この構成にしたのはなぜですか？

A1　若手育成を中心に考えているため、会長の役割をいずれはどの副会長でも担えるようにする目標があります。（連携協議会の会長ではなくても、各種団体内で活かせるように経験値を稼ぐ）

また、事務局4人としたことも、1人であると負担が集中してしまうことや、誰かが会議やイベントに参加できないときにも、残りの誰かが参加していれば書類の作成や調整をつけることができるからです。

Q2　まだ連携協議会のない地域へ、設立して良かった点やメッセージはありますか？

A2　設立に向けてはあまり難しく考えないことだと思います。不安なことも多かったですが、今ではやりたいことがありすぎて困っています。良かった点は既存の団体や他地区の団体との活動や情報共有ができていること。『ゆるーく繋がる』を合言葉に楽しい活動をしていきましょう！

Q&A

江ノ口連携協議会（登壇者：門田 浩人 会長 他12名）

『コミュニティ計画の策定・推進について』

参加者からの質問と江ノ口連携協議会からの回答

Q1　マモルンジャーの衣装は、皆さんジャストフィットしていましたが、手作りですか？

A1　マモルンジャ―の衣装は、地域の「あたごレンジャー」の衣装を借りて使用しています。あたごレンジャーが活動する際に、地域の方が手縫いで作成してくださいました。江ノ口コミュニティ計画の活動の一環として、高知市地域内連携協議会活動促進事業費補助金を活用して新しく衣装を作成する予定です。

Q2　ハンカチはどの頻度で配っていますか？

A2　普段は主に、あいさつ運動（毎月20日）や活動紹介の時に配布しています。
現在は800枚を配布していて、こうちこどもファンド活動発表会（令和8年3月15日）でも追加で200枚配布予定です。

Q3　毎月20日のあいさつ運動は、マモルンジャーだけで行っているのですか？それとも全校で行っているのでしょうか？

A3　マモルンジャー以外にも、小学5・6年生で構成された児童会や、PTA、校区交通安全会議の皆さんなどとコラボして、挨拶運動を行っています。

Q&A

講師　大槻　知史　氏　（高知大学地域協働学部　教授）
『「いつも」と「もしも」を楽しく繋ごう
～大好きな地区を次世代に残すために』

参加者からの質問と大槻講師からの回答

Q１　　つながるだけでも防災！って印象的でした。大槻先生の高知市内（高知県内）での印象的な取組みはありますか？

A１　　当日もお話しした上本宮町の例でしょうか。あとは下知地区で実施されている、津波避難をうっすら視野に入れた「一戸建て住民とマンション住民の交流サロン」、香南市野市地区で行われてる「お餅つきと防災訓練」、「子どもたち向けの防災ビンゴ」など、「いつも」と「もしも」の色々な取り組みを重ねて楽しまれている例は、色々あります。
　また、高知市内ではないですが、埼玉のマンションで同じ階の１０世帯でLINEのグループを作って安否確認訓練などをしていたら、「同じLINEグループの人だ」という安心感で、今まであいさつもしなかったご近所さん同士がつながっていくようになったという事例が印象的でした。

Q2　　防災をちょい足しするためには何かしらキーパーソンとか簡単な仕組みが必要かと思いますが、何からとりかかったらよいでしょうか。

A2　　自分が関わっている取り組みがあれば、（代表の人に話をして）活動の5分間だけ、何でもいいので防災のことを話してみる、やってみるくらいの気軽さが大切かなと思います。あとは、このまえ、今治の防災士会さんに呼ばれて、AIに相談しながら「自分の趣味」「地区の活動」に防災を楽しく組み込むアイデア出しのワークショップをして大層盛り上がりました。70代のみなさんも孫とLINEするみたいに楽しく話されていました。そういうような、新しいものを面白がりながらみんなと話すきっかけがあると良いかもしれませんね。

Q3　　大槻先生の選んだアイデアはなんですか？

A3　　ヒミツです。防災のベースになる「いつも」の支え合いを中心に、防災も少し組み込んだアイデアでした。選ぶのが大変なくらい参考になるアイデアがたくさんありました。

Q&A

参加者からの質問と大槻講師からの回答

Q4　いろいろ希望の持てるご講演、ありがとうございました。やりたいことがたくさんあり、絞りきれません（笑）どのように絞っていけばいいでしょうか？また、誰に聞くのがいいのでしょうか？

A4　「やりたいこと」「できること」と「ひつようなこと」が重なるアイデアを選ぶのが良いかもしれません。それでも迷ったら、「やりたい！」と思ったことから順に、失敗を恐れずに、どんどん手を出してみるのがいいと思います。

Q5　重ねる、欲張る…あまり重ねすぎるとしんどいということはないか？

A5　それはあると思います。だからこそ、「余白」「作り込みすぎない」「大成功よりも、70点を何回も続ける」ことが大切だと思います（自戒を込めて）

Q6　高齢化で参加者が少なくなっているので、子供、中学生、高校生との繋がりを強めて、次世代の働き手を育てなくては！と思いました。

A6　そうですね。子どもたち、若い世代は、一見、自分たちとはコミュニケーションの取り方や、地域との関わり方は違うように見えますが、じっくり話してみると根本の部分は同じだと思います。そこを信頼した上で、彼らにとって心地よい形の関わりを許容することが重要かと思います。（いうのは簡単ですが、なかなかできないのですが）

Q7　ゆるく重ねて、気長く活動してゆく大切さを感じましたが、そのやり方では1人ではできないし、みんなでする取っ掛かりの仕方がなかなか難しさを普段から感じていますので、どのようにしたらいいと思いますか。

A7　「成功する」「継続する」「綺麗にやる」「みんなでやる」と条件を上げすぎると手を出せないように思います。一回きりでも、準備途中でやめても、自分一人でやってもいいので、まずは手を出してみて、結果に関係なく、動いた自分を褒めてあげるスタンスが大切かなと思います。あとは、飲み会で盛り上がってアイデアが出たら、酔っ払っている間に試しにやってみる段取りをするとかでしょうか笑